ISSN 1344-9087

東北アジア学術交流懇話会ニューズレター

うしとら

第50号

● 目 次 ●

論点：地震被災経験を周囲の国々に …… 1
東北アジア通信：不思議の国、韓国滞在記 …… 2～5
会員の広場：「ススンエナル（스승의 날）」…… 6
編集後記： …… 6

論点 地震被災経験を周囲の国々に

東北大学東北アジア研究センター センター長 教授
東北アジア学術交流懇話会 理事長
佐藤 源之

東日本大震災を受け国内に留まらず、研究を通じてお付き合いをしている多くの国外の研究者、卒業生からセンターに励ましの言葉をいただいた。地震当日の夜中には電話が繋がりにくいなか、モンゴルから2人の卒業生が安否確認の電話をくれたのはうれしかった。

東北アジア研究センターが入居する川北合同研究棟の塔屋が地震により破損し、エレベーターや階段が一部崩落した。幸いセンターでは建物内での被害者は皆無だったが、東北大学全体では沿岸部にいた2名の学生、1名の入学予定者が犠牲となってしまった。大学は5月末には正常に講義を開始しており、夏休み明けには完全に通常の状態に回復する見込みである。我々の研究環境は一時的に学内に分散せざるを得ないが、建物の修復などの準備は順調に進んでいる。

東北アジア地域において、津波の大きな被害を受ける可能性があるのは日本とロシアの一部だと思われるが、地震災害はこれに留まらない。太平洋プレートの境界に位置する日本は際だって地震は多いが、バイカル湖周辺は地殻の歪みを受け地震の多発地域であることが知られている。モンゴルでも大きな規模の地震が起きていると考えられているが、歴史的に明確な記録が残っているわけではない。

写真 デーレン断層での地中レーダー(GPR)計測 (2001)

しばらく前に、モンゴル科学技術大学教授（当時）バヤスガラン教授らとウランバートルの南約200kmのゴビ砂漠に伸びているデーレン断層の調査を行ったことがある。平らなゴビ砂漠の中に高さ7mほどの段差が見渡せないほどの長さに伸びている。数百年前に発生した地震によってできたそうである。我々は地中レーダーで断層の構造を確かめるための調査を行ったが、地震によって生じた破砕帯を確認できた。フエルトでできたゲルに寝起きしていた当時の人たちは地震にさぞ驚いたことだろうが、ゲルの下敷きになっても怪我はたいしたことはなかっただろう。

しかし、現代の高層ビルが建ち並ぶウランバートルが地震に襲われたらどうなるかは誰の目にも明らかである。我が国は地震被災国としての経験を、周囲の国々に正しく伝え、日本以外では現状では稀薄な防災・減災のための対策に手助けをすべきだと考えている。

平成11年に制定された東北アジア学術交流懇話会の会則について、昨年来改正の準備を進め、昨年（2010年）12月の総会より改正された会則で会の運営を開始しました。改正の主たる目的は、運営の議決権を総会に委ねることです。これに合わせて仙台と東京で会議や講演会を開催し、より多くの会員の皆様が懇話会に参加することの利益を享受していただけるように考えています。

東北アジア通信

不思議の国、韓国滞在記

一番近い外国～“違っているのにどこか似ている、よく似ているのにやっぱり違う”～そんな韓国について

宮城県ソウル事務所　所長　阿部　貴夫

3月11日に発生した「東日本大震災」におきまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

韓国でも、地震発生直後からテレビやラジオのニュースで、また翌日以降の新聞等で宮城県をはじめ被災地の惨状が繰り返し報道されました。そして多くの韓国の方々がお見舞いのために当事務所を訪問されたほか、温かい励ましの電話やメールなども本当にたくさん頂戴しました。更には、宮城県の被災者の生活支援のために「義援金を送りたい」との申し出が多数寄せられたことから、急遽、当事務所で義援金専用口座を開設したところ、170件(4/20現在)近い個人や企業から義援金が届けられました。義援金等の募金は、韓国でも日本と同様に「韓国赤十字社」が主体となり、被災した全地域に公平に配分されますが、「宮城県の被災者あて」に限定した募金でこれだけの件数が寄せられるとは正直想像もできませんでした。その後、韓国のボランティア団体の招きで被災の現状を報告する機会を頂きましたが、多くの韓国の若い方々が参加して話を聞いてくださり、さらなる募金活動を展開することに至りました。

改めて、韓国の皆様のご厚情に感謝するとともに、宮城県のことをこれほど心配してくださったことに対して、本当に頭が下がる思いでいっぱいです。

（以上、平成23年4月22日に記す。なお、以下の本文は震災直前までに書き上げておりましたが、想像を絶する犠牲者の多さに戸惑い、心の整理が付くまで提出を保留しておりました。）

ー 宮城県ソウル事務所とは

①宮城県内企業の韓国進出の支援　②宮城県の観光PRと韓国人観光客の誘致　③文化・教育等の交流事業等を推進する、といった目的のため、1992年（平成4年）12月に開設されました。

ちなみに、現在韓国に事務所を設置しているのは、宮城県をはじめ、北東北3県（青森・秋田・岩手）北海道、山形県、新潟県、静岡県の5事務所8道県です。

宮城県ソウル事務所（図1）は、ソウル市庁（写真1）のあるソウル江北中心部に位置しています。韓国王族の歴史を物語る徳寿宮（写真2）や、ソウル市立美術館、貞洞劇場が近くにあります。この付近は大通りの喧噪を離れ、緑豊かな木々が生い茂る落ち着いた雰囲気の街路が続いていて、各国大使館も点在する地域です。観光のメッカである明洞へは、地下鉄市庁駅～ソウル広場～ロッテホテルを経て、徒歩で移動が可能な距離です。

私は8代目の所長で、歴代所長のほとんどが単身赴任者でしたが、私は妻と幼稚園児の長男を伴って韓国に来ています。

一番近い外国－“違っているのにどこか似ている、よく似ているのにやっぱり違う”－そんな韓国について、我々家族がソウルに2年間、住んで見て感じたことを少しだけ、ありのままにお伝えしたいと思います。

図1　ソウル市概略地図

東北アジア通信

写真1　新庁舎建設中のソウル市庁（8月現在）：手前の白い部分は建築工事用防護壁で、市庁機能は近隣の分庁舎へ移転

写真2　徳寿宮大漢門前の王宮守門将交代儀式

韓国は、韓流ドラマ・映画・音楽、そして観光地として、年代を問わず日本人を惹きつけてやまない魅力のある国です。ソウルに長く住む日本人達は『この5年10年、韓国は変わった』と口を揃えています。新しい風が吹いている今の韓国はますます我々にとって身近な存在になりました。

ー ソウルの住まい

ソウルで、駐在員とその家族等の日本人が多く住んでいるのは、江北南端にある「二村（イチョン）」という地域ですが、私の住む家は“江北中心部”の西側に隣接した「梨大（イデ）」という地域の名門女子大のすぐ近くにあります。ここから延世大・弘益大・西江大といった大学が円を描くように位置しており、学生街の連なる地域です。この地域にも、留学生や大学関係者などの日本人は多く住んでいると思います。

ソウルには高層の住宅が多く見られます。「アパート」と呼ばれるこの住宅は、新築のものは日本のマンションのように瀟洒ですが、古いものは団地のようなイメージです（写真3）。私の住むアパート（築30年以上）も、15階建ての建物が10棟、小高い丘の斜面にパズルのように入り組んで建っています。 一般的にソウルの土地代は東京よりも高い（ある調査では約3倍！）ため、戸建住宅はごく少数です。共同住宅のうち低層のものは「ビラ」と呼ばれ、オフィスビルの上階には「オフィステル」と呼ばれる事務所兼用の住宅があります。

現在ソウル市内で最も高層のアパートは、江南南部にある「タワーパレス」が75階建てです。ソウル市内は中央に南山、北にも南にも山が聳える真ん中を漢江が横断する、坂の多い地形です。土地面積は東京23区に近い程度なのに、人口密度でそれを上回っています。そして地震がない、競走精神、外見重視等々、様々な理由が相まって建物は上へ上へと伸びていくのでしょう。

ソウルの家には「オンドル（床暖房）」が標準装備されています。寒い冬は本当にこの暖かさに癒され、離れられなくなります。外気温がマイナス20℃になる日もあるため、オンドルは24時間点けています。公共料金が安価なソウルでも、さすがに冬場のガス代だけはバカになりません。

ー 子供に優しい人々

「アパート」は大抵、数棟から十数棟で構成されて、入口のゲートと警備室がそれぞれ備えられ、警備員が常駐しています。我々家族が住み始めた頃から、この警備員の方や清掃の方、そして近所の方々は屈託なく声をかけてくれていました。我々が小さい子供を連れていたことが大きかったと思います。

住んで間もなくの頃、当時三歳の息子がアパート隣接の「マート（スーパーマーケット）」でいなくなってしまうという事態が起こりました。妻はすぐに私の事務所に連絡をよこし、スタッフの通訳のもとマートの方々と共に必死に息子を捜し回りましたが、店内も店の周りもいくら探しても見つかりませんでした。警察や大使館への通報を考えた私は、一旦家へ戻るよう妻に言いました。マートからアパートへ続く坂道の途中に担当の警備室がありますが、そこを通りかかった丁度その時、警備の方に呼び止められた妻は

写真3　左40階建新築アパート、右20階建旧築

東北アジア通信

室内でジュースを飲んでいる息子を見つけて腰が抜けたと言っていました。それを聞くまでは私も誘拐等の事態さえ考えていました。息子は母親が帰宅したものと思いこみ、一人で家に向かったものの中に入れずに困っていたところを警備の方に保護して頂いたということでした。まだ、お互いに会話が出来ない状況の中でしたが、事情を察してくださったのでしょう。

この幸運の後、妻と息子は暫くの間、近所で会う人から度々迷子事件の小言を頂いて、ひたすら恐縮する日々を送ることになりました。

その後も、小さな子供を連れて出歩く度毎に、地下鉄に乗ればお菓子を分けてもらったり、バスに乗れば『ここに座れ』と声を掛けられたり、道を歩いていると『何歳だ？』とよく聞かれました。冬の寒い日に子供の防寒に不備があろうものなら、たちまち親が注意されてしまいます。それらは、全く面識のない方から受けるものなのです。

韓国は子供に優しい国であり、よその子にもよく目を配る年配の方が本当に多いのです。

ー 早い！安い！交通機関

ソウルは、地下鉄やバスの公共交通網がよく発達しています。そして、交通カードを使うと現金で支払うよりも安くなります。初乗900ウォン（約66円、現金乗車だと1000ウォン）で乗って、その後他に乗り継いだ場合でも、乗換割引でそのままかなり遠くまで行くことが出来ます。

大通りにはバス専用レーン（李明博大統領の、ソウル市長時代の施策）がありますが、とにかくバスの台数が多いので、朝晩のラッシュ時に専用レーンがバスで渋滞するとか、バス停にバスが数珠繋ぎという光景もよく見られます(写真4)。

一方、車も三車線の道路に車列が4つ5つ??とにかく前へ進もうとする「パルリパルリ（早く！ 早く！）精神」が見てとれます。黄信号で止まろうとしたタクシーを追い抜いて交差点を突っ切るバス、歩道や縁石に乗り上げてすり抜けていく車、隙をぬって走るバイクなど、ソウルの街はスリリングです。特に、配達バイクは歩道も“普通に”走ってきます。なにより“早い”ことが最優先のソウルでは、歩道でも気を抜いてはいられないのです。

写真4　バス専用レーン上、バス停に並ぶバス

ー 食べ物は辛いものが美味しいもの？

韓国料理というと、やはり「辛いもの」が多いです。お店の方に『辛いか？』と聞いて『辛くない』と言われたものは「普通に辛い」です。当然『辛いよ』と言われたものは「激辛」です。辛いものが苦手な妻と息子が『辛くしないでください』と頼むと、お店の方はとても残念そうです。子供連れの場合は、辛くなくて身体にも良いおかずが出てくる「韓国家庭料理」がいいと思います。

韓国の方は小さい頃からキムチで訓練を積んでいる（息子の幼稚園の給食にはキムチ各種が日替わりで必ず出ています）ようなので、屋台（写真5）の辛口トッポッギ（韓国の棒餅をピリ辛ソースで煮込んだ人気メニュー）を女子学生が平気で頬張っていますが、私は未だに完食できません。

しかし、本場の春川で食べたタッカルビ（鶏肉と野菜と餅などをピリ辛ソースで炒めた名物料理）は、辛いけれども美味しくて箸が止まりませんでした。

なお、日本の友人たちから「韓国は美味しいものがたくさんあって羨ましい」とよく言われますが、たまに食べるから良いのであって、毎日あの「赤い料理」を食べる苦労も理解して欲しいと思っています。

写真5　街中のトッポッギ屋台

ー 驚くべき教育熱の高さ

韓国は完全なる学歴社会です。全ての努力は高校三年生で受ける「大学修学能力試験」に向けられています。この試験の結果によって大学とその後の将来が決まってしまうと言っても過言ではないからです。当日は、国を挙げて試験一色の一日となっています。そういう訳で子供の早期教育は、いまや小学校入学前に「ハングル（韓国の文字）」の読み書きと英語の基礎は必須で、小学一年生の授業はそれ

東北アジア通信

らを既に理解しているという前提で授業が進められ、最初から「パダスギ（聞き取り書き）」のテストがあるそうです。そのため、幼稚園に入る前から自宅学習が始まり、週に一度先生が来て教えてくれる学習教材が人気です。更に幼稚園に入ると、ピアノ・バイオリン・美術・テコンドーなどの習い事を始めるので、子供達は忙しくなります。そして、中学・高校ともなると１校時から７校時の授業に加え、早朝の０校時授業と放課後の課外授業を受けるために、お弁当を二つも三つも持って登校し、文字通り朝から晩までの勉強となるそうです。小・中・高校の終業時間には校門前に「ハゴン（塾）」の送迎バスが並びます。そして学校が休みの日にも「ハゴン」で勉強します。勿論、子供の勉強のために両親や家族は様々な協力を惜しみません。

我が家の隣家では、よく夜の10時や11時にドアキーを開ける電子音が響き渡りますが、この家の高校生が帰宅したときの音だということです。そして、朝早くに窓の外を眺めると、制服の学生達が坂道を降りて行きます。

韓国に「ゆとり教育」などというものはハナから存在しないようです。

そうそう我が息子の通う幼稚園にも「経済学」という課外授業があります。

ー 自己主張する人々

韓国の方は「とにかく主張する」ということを強く感じます。アパートの駐車場で、警備員に注意を受けた住人がそれに抗議し、そのうち怒鳴り合いが始まったことには驚きました。

つい先日は我々が乗っていたバスに横からぶつかってきた車がありましたが、そのドライバーはバスの運転手に向かって抗議してきました。

私の感覚だとそれらは異様な事です。そしてもっと驚くことには、言いたいだけ言い合ったその後腐れがないようなのです。駐車場で怒鳴り合っていたあの二人が翌日は何事もなかったように笑顔で挨拶し合っているのを見た時には本当に不思議な気がしたものです。

私の家の階下の住人はこの二年間で三度、我が家に怒鳴り込んできました。一番初めは住んですぐに息子がベッドから飛び降りて遊び、何度か床を鳴らしてしまった時、二度目は浴室の水が階下に漏れていると言ってきた時、最後はこの冬の凍結で水道管が破裂したために水漏れした時でした。どれも我が家のドアを叩いて始まる猛烈な抗議でした。最後の時は私の勤める事務所の韓国人スタッフもあきれるほどの賠償請求になり、アパートの管理事務所の方にも同情されてしまいました。しかし、この二年の間我々と階下の住人との関係はおおむね良好なのです。帰省の手土産を届けるとキムチやジョン（チヂミ）など手作りのお返しをくれたりしますし、子供にはいつも笑顔で話しかけてくれます。何か抗議してくるときは鬼のように恐ろしくもなりますが、次の日にはケロっとして挨拶をしてきたり、その切り替えには本当に驚かされます。

私なども韓国人スタッフにあまりにもハッキリと言われて落ち込んだりしますが、彼らのスッキリした顔を見ると羨ましくも思えてきます。

思ったことを思ったままに言える環境、それを受け入れてくれる環境は、日本にはなかなか無いものかもしれません。

そのせいか、日本人は兎角思っていることもはっきり言わず何を考えているか分からないとか、言っていることと思っていることが違う等の評価を受けることがあります。

その是非は別として、いろいろな世間もあるということを、我々日本人も知っておいた方が良いのではないかと思っています。

その他にも、お伝えしたいことがまだまだあります。例えば、韓国人女性の美容整形を受ける理由やその確率とか、いわゆる「爆弾酒」と言われるウイスキーや焼酎などをビールで割って作った韓国風カクテル（私の場合、これに宮城県の日本酒を入れたものを飲まされます）のこと、それから、彼らはなぜいつも怒ったような話し方をするのかとか、我々と顔形が似ているけれども全く違う人間である彼らと上手に付き合うコツなど、いつか機会がありましたらご紹介したいと思います。

私はこの不思議な隣国に暮らして、我々が彼らに見習うべき点、彼らから学ぶべき点がたくさんあることを知りました。

そして、この不思議な人達をもっともっと知りたいと思っています。

（2011年3月上旬記。ただし、写真1は、その後追加）

写真６　四年間の工期を経て昨年復元され、以前にも増して多くの観光客を集めている光化門（韓国古宮を代表する景福宮の正門で、韓国で最も有名な観光施設）：ここから市庁に至る区域はソウルの文化と行政の中心地

会員の広場

東北アジア学術交流懇話会

お互いの交流拡大を目的に、会員皆様の近況・ご意見などを発信していただくスペースです（不定期）。
今回は、韓国出身で東北大学に留学し大学院文学研究科博士後期課程修了後、東北文化学園大学で韓国語講座を担当されている 文 慶喆 先生に寄稿いただきました。先生は 1991 年の札幌冬季ユニバーシアード大会で公式通訳として活躍されるなど日本語が堪能だけでなく、日韓言語交流史・日韓文化交流史などの分野を研究テーマにされており、日本の文化と歴史にも造詣の深い方です。
大陸文明の中継地として古くから日本と交流があり、近年も映画・TV ドラマさらには音楽などを通して文化交流が益々盛んになっている韓国ですが、新学期が３月から始まる事や「先生の日」があるなど、日本人に広く知られてない事柄がまだまだある様です。

「ススンエナル（스승의 날）」

東北文化学園大学総合政策学部准教授 文（ムン） 慶喆（キョンチョル）

写真１．大学間交流と語学研修のため訪れた韓国大田にある培材大学にて（2011.1.26）：培材大学は、米国宣教師アペンゼラー（後の銅像）により1885年に創設された韓国最初の近代教育機関で、今年は本学から11日間の日程で14名が語学研修に参加（写真中央は東北文化学園大学前学長高坂知節氏、右が筆者）

韓国の学校の新学期は日本より一ヶ月早く３月から始まります。入学式も終わり、一息落ち着く頃になると季節の女王５月が待っています。日本もこの時期はゴールデンウィークという大型連休になりますが、韓国も規模は小さいものの、各種の行事で忙しくなります。５月５日は「子供の日」です。５月８日は「両親の日」で、韓国も最初は日本と同じく「母の日」でしたがお父さんが寂しくなるという配慮で後になって「両親の日」と変わりました。（韓国にはもともと「父の日」はありませんでした。）

写真２　培材大学での語学研修様子：語学のみならず、文化体験や韓国の大学生との交流も楽しめた。

ここまでは日本とあまり変わりませんが、両親の日が終わるとすぐやってくるのが５月15日の「先生の日」です。韓国語では「ススンエナル（스승의 날）」と言います。「ススン（스승）」は「師匠」という意味で先生に尊敬の念を込めた言葉です。「先生の日」と言っても日本にはない記念日なので、「えっ」とびっくりする日本人もいます。「先生の日」は恩師に感謝と尊敬の念を表すために制定された記念日です。韓国は儒教の伝統が未だに根強く残り、教育熱は世界一と言われているので先生の日があっても不思議でもなさそうですが、その歴史は案外と短いようです。最初は 1958 年、忠清南道のある女子高校から始まり、それが全国的に広がるにつれて 1963 年青少年赤十字中央学生協議会において「先生の日」を制定することを正式に決めました。このような経緯もあり、最初は５月 24 日だったのが、次は５月 26 日変わりました。５月 26 日は国連に加盟した日だったので先生の日と直接的な関連はありませんでした。そのため 1965 年からは朝鮮の第四代王である世宗大王の誕生日の５月 15 日になりました。

写真３　語学研修修了式後の記念写真：韓国の大学卒業式と同じく黒いガウンに黒の角帽姿で、祝賀公演をしてくれた大田市立国楽団団員（中央前部）と共に

この日になると両親の日と同じく各学校ではカーネーションの花を先生につけてあげます。また、恩師に感謝の手紙を書いたり、贈り物をしたり、謝恩のための各種行事も開かれます。このような先生に尊敬と感謝を表す良い日ですが、韓国の学歴志向と教育熱の過熱により各学校では先生に「寸志」（賄賂のようなお金）をわたす風習が広がり、深刻な社会問題にもなっています。この日を学校の休みの日にしたり、卒業式の日に立て替えたらどうかとういう意見もあり、先生の日に対する考えは益々熱くなるようです。

EDITOR'S NOTE 編集後記

今回は韓国の記事がメインです。文氏のお話を読んで、教員の一人としては日本にも「先生の日」があってもよいと思う反面、贈り物や儀礼的な感謝状をもらうのは気が重いので、なくてよかったとも思います。ネットで調べると、中国は９月 10 日、台湾は９月 28 日（孔子の誕生日）、ベトナムは 11 月 20 日が先生の日だそうで、旧漢字文化圏で先生の日がないのは日本だけのようです。師の影が薄い国と言えます。そして阿部氏のお話は、何事によらず「影が濃い」韓国の世情を教えてくれます。佐藤センター長によるモンゴルの地震と断層についてのお話は、そういう災害とは無縁と思われている国に対する貴重な警告です。（石渡　明）

《 うしとら 》（東北アジア学術交流懇話会ニューズレター）第 50 号　2011 年８月 20 日発行
発行　東北アジア学術交流懇話会
〒 980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41　東北大学東北アジア研究センター気付
PHONE 022-795-6081　FAX 022-795-3599
http://www.cneas.tohoku.ac.jp/gon2/　E-mail: gon@cneas.tohoku.ac.jp